

つながるスイッチ!!

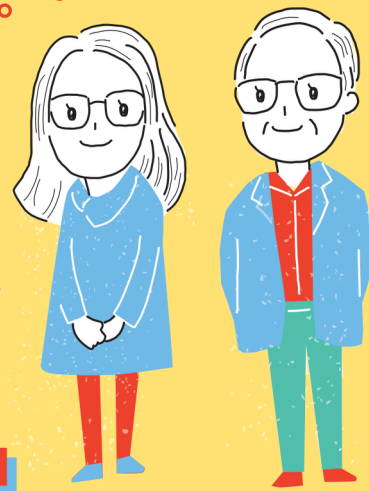
久留米市社会福祉協議会

vol.34

西国分福ふくまつりと、 支え合い推進会議

(西国分校区の取り組み)

校区のみんなが知り合う、認め合うきっかけに!
「西国分福ふくまつり」を開催



今回は「西国分校区」を
ご紹介します。

西国分校区社会福祉協議会

会長 荒木 征洋さん

西国分校区社会福祉協議会

庶務 吉武 明子さん

「西国分 福ふくまつり」開催

西国分校区では、令和7年2月に
校区社会福祉協議会主催で「西国分
福ふくまつり」を開催しました。

「近年、校区ではマンションが多く
建ち始め、昔から住む人と新しく
住み始めた人とのつながりが薄れて
いるように感じていました。校区みんな
が交流できるようなことができないか
と話し合いを重ね、「西国分福ふく
まつり」という校区のイベントを開催
することを決めました」と荒木さん。

開催に向けて、企画委員会を立ち上げ、
約1年前から準備を始めました。「校区
人口が一番多い西国分校区。校区内には、
保育園、小中学校、高校、美容学校、
福祉事業所など多くの学校や企業など
があり、また外国人が多数留学する
専門学校があることから外国籍の住民
も多いんです。多様性を活かし、地域
住民、地域に関わっている人たち
皆に、まつりに参加してもらい、楽しみ
ながらお互いが知り合い、認め合える

イベントにしたいと
思いました」と荒木さん。

「イベントを通して、
校区内にはどういった
人が住んでいるのか、
校区内にある事業所
は普段どういった活動
をしているのか、お互い
が知るきっかけになつて
欲しかったです」そう
話す吉武さんは、企画
委員としてイベントの
ために尽力されました。主任児童委員
を10年以上務め、以前から子どもたち
とのつながりも深かった吉武さん。そんな
吉武さんのことを「フットワークが
軽く、人脈が広い吉武さんが校区社協
のメンバーに入ってくれたことで行動の
幅が広がり、イベントの準備もスムーズ
に進みました」と、荒木さんは笑顔で
讚えます。

企画委員の皆さん、校区の有志の皆さん
の協力のもと、令和7年2月1日(土)
10時~14時30分、西国分校区「コミュ
ニティセンター」で「第1回 西国分福ふく
まつり」共生・心とからだの健康まつり
」が開催されました。イベントのオープ
ニングはネパールのダンスで華やかに
スタート。美容学校の学生さんの
協力による高齢者のメイク・ネイル体
験コーナーや、福祉事業所などの出店
コーナー、健康チェック、防災パネル展
示、保育園児が参加した幼児コーナー
「鬼のお面づくり」など内容も盛りだ
くさんで賑わいをみせました。会場で
は地元の高校生たちにボランティア

で運営を手伝ってもらいました。
500人以上の来場者があり、初開催
のイベントは大成功で終わりました。
大成功した1回目を受け、さっそく
同年11月に「第2回福ふくまつり」を
開催。「正直、2回目の開催は失敗し
ました」そう荒木さんは話されます。
「2回目の福ふくまつりは、校区文化
祭の翌日に開催しました。課題だった
経費の削減のため、文化祭で使った
テントをそのまま福ふくまつりでも



「2回目の福ふくまつりは、校区文化
祭の翌日に開催しました。課題だった
経費の削減のため、文化祭で使った
テントをそのまま福ふくまつりでも

利用させてもらうためでもあり
 ました。するとその日は日曜日。
 学校や企業はお休みなので、
 参加・協力してくれる人が少な
 かったです。また、11月の行楽
 シーズンで市内あちこちで大きな
 イベントがあつていたので、福ふく
 まつりに遊びに来てくれる人も
 少なかったです」と荒木さん。「準備
 期間が短かったですね。反省点が
 たくさんです」と吉武さん。近く
 反省会を開き、皆で意見を出し
 合い、今後の開催時期や開催
 方法などを検討されるそうです。
 まつりのこれからについて、「福ふく
 まつりが、校区住民同士の交流
 だけでなく、西国分校区自体
 のPRになつていけば良いです」と、
 お二人は話されました。

西国分校区 支え合い推進会議の 特徴

西国分校区は人口は1万
 7000人以上、自治会は30以上
 ある大きな校区です。西国分校区
 の支え合い推進会議は、約20名
 のメンバーで構成しています。
 会議は、いつも活発な意見が出る
 そうです。

「みんなの意見が聞きたいので、
 会議では全員に必ず一言もらう
 ようにしています。みんな熱い意見
 を持つてらっしゃいますよ！あと、
 会議に時々看護師や保健師の
 実習生がオブザーバーで参加

されることもありま。学生さん
 が会議に参加している校区も珍しい
 のではないでしょうか」と荒木
 さん。また、吉武さんは、「コロナ禍
 以降、住民同士の横のつながりが
 薄くなった」と話されます。「今、
 支え合い推進会議の協議を通して、
 コロナ禍以降途絶えている地区
 懇談会の再開を目指しています。
 地区懇談会は、学校と地域で
 子どもたちを取り巻く問題や防犯
 等の情報を共有し、話し合いを
 行なっていました。人口も多く自治会
 も多い西国分校区にとつて、貴重
 な情報交換の場所でした。地区
 同士の連携をしっかりとついでい
 たいです」と吉武さん。

これからのご活躍

● 荒木さん
 私も81歳になります。校区全体も
 高齢化が進み、今、老人会や女性の
 会は存続の危機に面しています。
 自治会の加入率も減っています。
 これからの校区のために若い人を
 もつと巻き込んでいきたいです。
 また、広い校区のわりに公民館の
 数が少ないので、高齢者が集まり
 にくくなっています。もつと気軽に
 集まれるよう、交流の場所の確保
 も増やしていきたいです。

● 吉武さん
 コロナ禍後、サロン活動の数が
 減ってしまっているのです、もつと

活発に活動が行われてほしい
 です。校区内のあちこちで、高齢者
 の皆さんが気軽におしゃべりしに
 集まったりお菓子を持ち寄りたり
 していると、それが校区自体の
 活性化につながると思っています。
 そういう雰囲気は子どもたちに
 とつても良い影響になるはず
 です。今、保育園をサロン活動の
 場として使つてもいいという声も
 いただいています。高齢者と子ども
 たちとの新しい交流の場になる
 のではと楽しみです。また、一人
 暮らしの高齢者が増えていま。す。
 孤立した人も見落とさず、校区
 住民の皆さんが、「西国分校区に
 住んでいてよかった」と思つてもら
 いたいです。

取材を終えて

「吉武さんを始め校区のみんながよく
 動いてくれた。自分はGOサインを
 出して、何かあった時に責任を取る
 だけ」そう話し、大きな器で皆を守る
 荒木さん。一方、吉武さんは「荒木会長
 は良い雰囲気を作り、みんなが不安が
 ないよう、先に動いてくださる方。全員
 の意見を汲み取つてくださる方」と、
 荒木さんのことを話されていました。
 お互いを尊重しながら認め合う良い
 信頼関係がとても伝わってきました。
 それは校区全体の活気ある雰囲気にも
 つながり、西国分校区だからこそ、
 「福ふくまつり」という大きなイベント
 が成功したのだと感じました。

- 校区社会福祉協議会主催で「西国分福ふくまつり」を開催
- 「西国分福ふくまつり」は、校区内の様々な住民、関連企業などを巻き込み、多様性を活かしたイベントづくりを行なった
- 支え合い推進会議で熱い意見を交わし、地区懇談会の再開を目指すなど、連携をしっかりとついでいきたい
- サロン活動の場に保育園が場所提供の可能性が。高齢者と子どもの新たな交流の場に



吉武 明子さん 荒木 征洋さん

旅行が趣味の荒木さん。若い
 頃は海外旅行もよくしていたそう。
 1年に1回は、家族総勢18名
 (お孫ちゃんは11名)で、旅行に
 行くのが恒例になっています。
 グルテンフリーや野菜中心の
 料理など、健康的な食事づくりに
 ハマっているという吉武さん。
 日々、本やYouTubeをみて勉強
 し実践されています。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
 TEL: 0942-34-3035
 FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net
 HP: <https://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

【note—つくる、つながる、とどける。】で
 「つながるスイッチ!!」を検索してください!

#久留米市 #社協 #地域 #福祉 #地域福祉 #支え合い #福ふく #熱い



つながるスイッチ!!は
 HPでも
 webマガジンでも
 掲載中